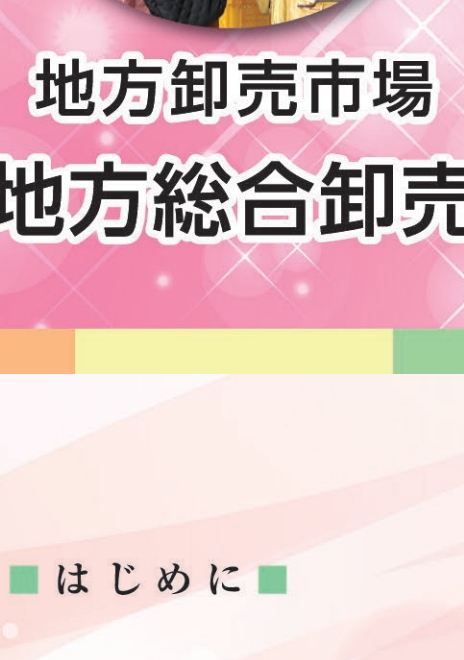


令和6年度 市場案内



地方卸売市場 一宮地方総合卸売市場

はじめに



卸売市場は、青果や水産物などの生鮮食料品を全国から集荷し、適正な価格をつけて安定供給する、社会に欠かせない物流拠点です。

しかし、近年は産地直送やインターネット取引など流通形態の多様化が進んだことで、国内全体の市場取引量は緩やかに減少しています。そのため、多くの卸売事業者は、取引先の拡大を図るとともに、人件費や流通コストの削減に取り組んでいます。

当卸売市場も青果・水産卸売事業者の取扱数量の減少傾向が長く続いていましたが、「日曜新鮮市」の毎月開催や地場野菜を紹介する「ぐりーんりんぐ」の発行など、青果等の消費拡大に向けた啓発活動を実施し、経営改善に尽力する卸売事業者を支援してきました。

これらの取り組みの成果もあり、当卸売市場の取引量は第44期（2021年度）に増加に転じ、第45期も続伸しました。

第47期（2024年度）の市場取扱数量は9,565トン、取扱金額は36億7,113万円でした。前期比では若干減少したものの、「なんとか歯止めをかけている」状況が続いていると評価しています。

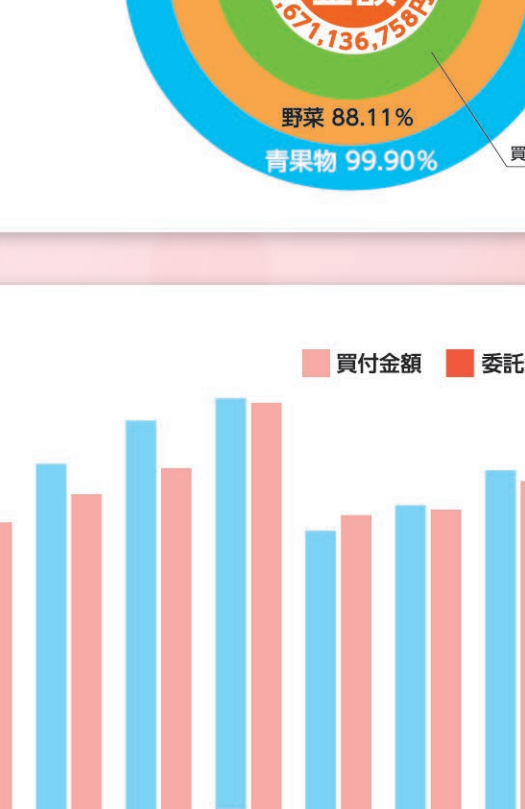
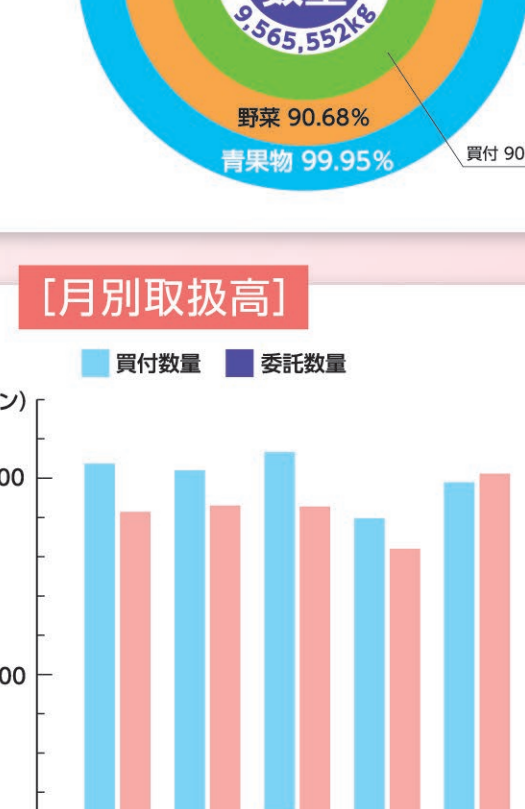
ここ数年でようやく光が差し始めましたが、依然として不安定な状況が続いているため、引き続き関係者と協力し、諸課題に取り組んでまいります。そして、当卸売市場が尾張西部地域における流通拠点として発展できるよう尽力してまいります。

地方卸売市場 一宮地方総合卸売市場
開設者 一宮地方総合卸売市場株式会社
代表取締役 福井 斉（一宮市副市長）

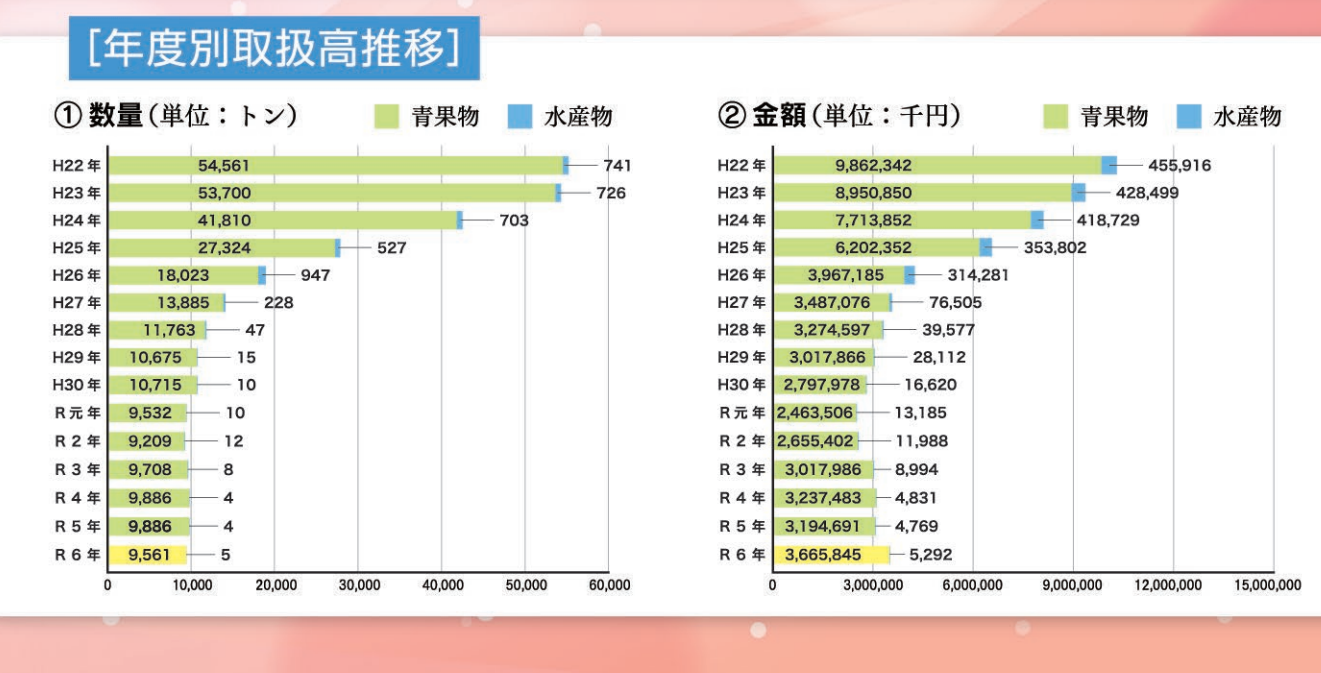


令和6年度 取扱情報

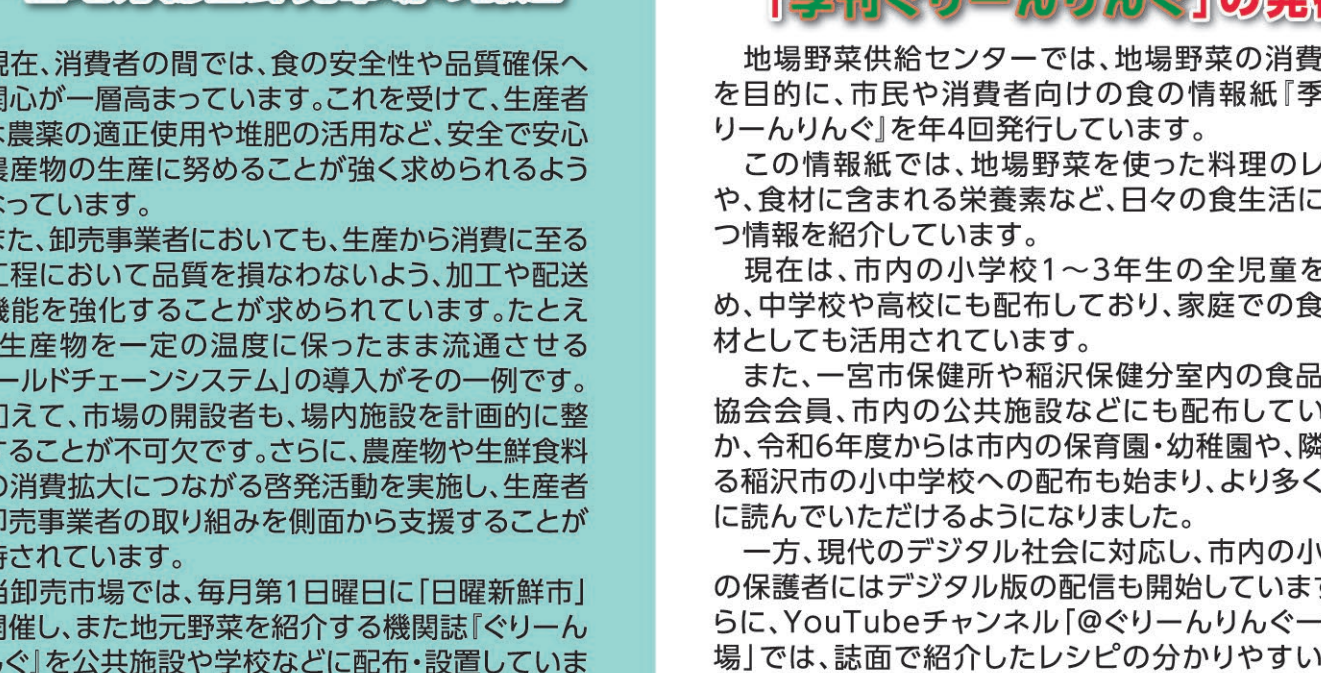
【種別、委託、買付別取扱高比率】



【月別取扱高】



【年度別取扱高推移】



一宮地方総合卸売市場の課題

現在、消費者の間では、食の安全性や品質確保への関心が一層高まっています。これを受けて、生産者には農業の適正使用や堆肥の活用など、安全で安心な農産物の生産に努めることが強く求められるようになっていきます。

また、卸売事業者においても、生産から消費に至る各工程において品質を損なわないよう、加工や配送の機能を強化することが求められています。たとえば、生産物を一定の温度に保ったまま流通させる「コールドチェーンシステム」の導入がその一例です。

加えて、市場の開設者も、場内施設を計画的に整備することが不可欠です。さらに、農産物や生鮮食料品の消費拡大につながる啓発活動を実施し、生産者や卸売事業者の取り組みを側面から支援することが期待されています。

当卸売市場では、毎月第1日曜日に「日曜新鮮市」を開催し、また地元野菜を紹介する機関誌「ぐりーんりんぐ」を公共施設や学校などに配布・設置しています。今後も、これらの啓発活動を継続していく必要があります。

さらに、市場開設者がこれらの取り組みや施設整備を着実に進めていくためには、自らの経営基盤を安定させることが不可欠です。当卸売市場においても、現在空き小間となっている関連店舗の補充などに積極的に取り組み、収入の確保を図っていくことが求められます。

日曜新鮮市の開催

当卸売市場では、毎月第1日曜日の午前5時から8時まで、「日曜新鮮市」を開催しています。日曜新鮮市では、新鮮な地場野菜や果物、魚介類、食肉、総合食料品、日用雑貨などを求めて多くの来場者で賑わいます。

また、奇数月には集客イベントとして、市場商品券が当たる抽選会も実施しており、来場者にさらなる楽しさを提供しています。



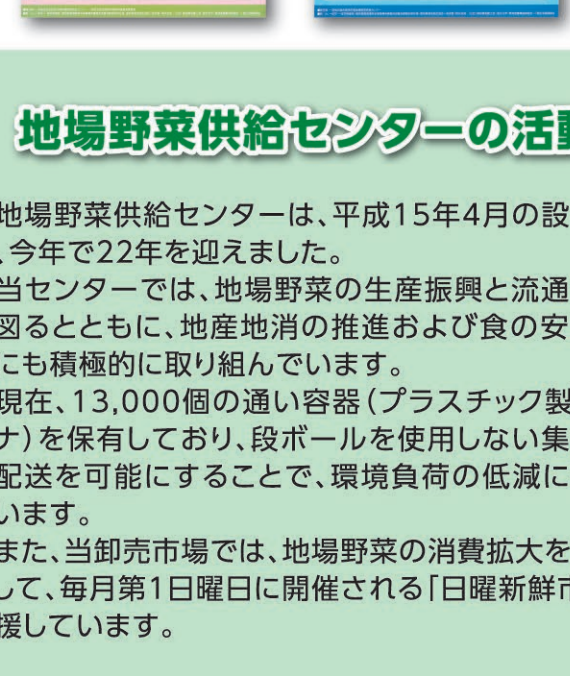
食の情報紙「季刊ぐりーんりんぐ」の発行

地場野菜供給センターでは、地場野菜の消費拡大を目的に、市民や消費者向けの食の情報紙「季刊ぐりーんりんぐ」を年4回発行しています。この情報紙では、地場野菜を使った料理のレシピや、食材に含まれる栄養素など、日々の食生活に役立つ情報を紹介しています。

現在は、市内の小学校1～3年生の全児童をはじめ、中学校や高校にも配布しており、家庭での食育教材としても活用されています。

また、市保健所や福祉保健分室内の食衛生協会会員、市内の公共施設などにも配布しているほか、令和6年度からは市の保育園・幼稚園や、隣接する稲沢市の小中学校への配布も始まり、より多くの方に読んでいただけるようになりました。

一方、現代のデジタル社会に対応し、市内の小学生の保護者にはデジタル版の配信も開始しています。さらに、YouTubeチャンネル「@ぐりーんりんぐ一宮市」では、誌面で紹介したレシピの分かりやすい動画も配信し、より一層の地場野菜の消費促進に取り組んでいます。



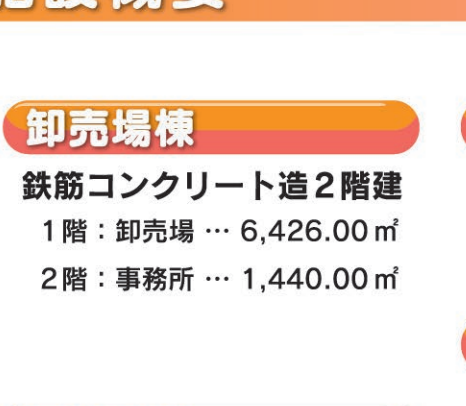
地場野菜供給センターの活動

地場野菜供給センターは、平成15年4月の設立以来、今年で22年を迎えました。当センターでは、地場野菜の生産振興と流通促進を図るとともに、地産地消の推進および食の安全確保にも積極的に取り組んでいます。

現在、13,000個の通い容器（プラスチック製コンテナ）を保有しており、段ボールを使用しない集出荷や配送を可能にすることで、環境負荷の低減に努めています。

また、当卸売市場では、地場野菜の消費拡大を目的として、毎月第1日曜日に開催される「日曜新鮮市」を支援しています。

機構図

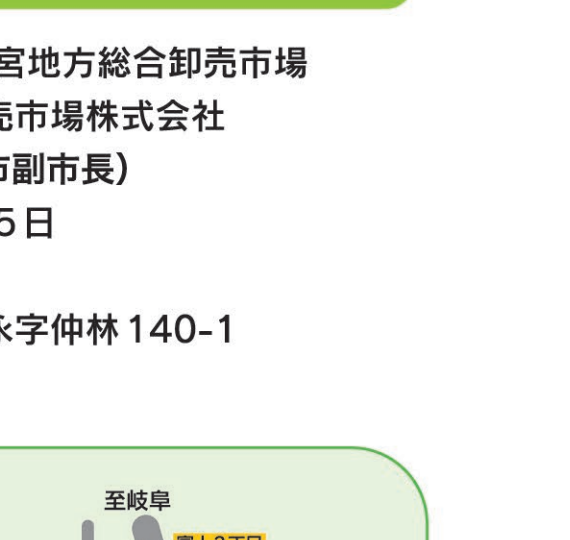
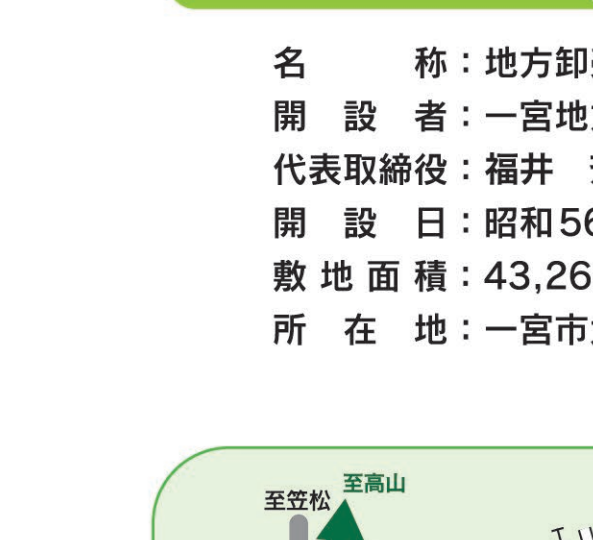


当卸売市場の流通のしくみ



施設概要

- 卸売場棟**
鉄筋コンクリート造2階建
1階：卸売場 … 6,426.00㎡
2階：事務所 … 1,440.00㎡
- 関連事業者店舗棟**
鉄骨造平屋建
3棟 35小間 … 2,545.84㎡
- 駐車場**
自動車収容能力 500台
- 保冷库棟**
鉄骨折鉄葺平屋建
保冷库 …… 2室 498.00㎡
- 污水处理場**
鉄筋コンクリート造平屋建
・一日当たりの污水处理能力 100㎡
（沈渣槽、調整槽、汚泥槽、曝気槽、消泡槽、膜分離槽を設置）
・処理方式 …… 活性汚泥法
（長時間曝気方式）



概要

名称：地方卸売市場 一宮地方総合卸売市場
開設者：一宮地方総合卸売市場株式会社
代表取締役：福井 斉（一宮市副市長）
開設日：昭和56年3月15日
敷地面積：43,264㎡
所在地：一宮市大和町氏永字仲林140-1



編集／発行

一宮地方総合卸売市場株式会社
（令和7年8月発行）
〒491-0586 一宮市大和町氏永字仲林140-1
TEL (0586) 44-1119 FAX (0586) 44-1068
E-mail: ichinomiya1119@mocha.ocn.ne.jp
HP: https://ichinomiyaichiba.p-kit.com/